

日本商工業別明細図 山口市

昭和 26 年 (1951) (雨村明倫所蔵)

⑥ちまきや

安政 2 年 (1855) 創業の八木呉服店は明治末頃洋品部を設置、昭和 8 年県内初の百貨店「ちまきや八木」が新築落成。中心商店街の核として発展、屋上の遊園地や別館があった時期も。景気低迷等の下、増床やリニューアルを試みますが平成 20 年閉店、百貨店事業を山口井筒屋に引き継ぎました。2 代目宗十郎は山口町長、山口実業会会長をつとめ、県庁留置・市制施行に尽力、初代山口市長に。

⑦第三書房

斎藤茂吉らに師事した歌人友廣保一が、昭和 5 年札ノ辻に開業した古本屋。中原中也や種田山頭火も訪れました。同 14 年米屋町に移転、同 59 年閉店しました。

⑧市役所

昭和 23 年中市にあった市役所が火災により新館以外全焼、一時白石小学校に仮庁舎を開設、後に片岡小路の旧防空学校へ移転しました。同 25 年新道の吉敷郡役所跡に新市庁舎が竣工。(現山口中央郵便局の地) 駐車場不足等により同 50 年今の地に移転しました。

⑨アベバシ

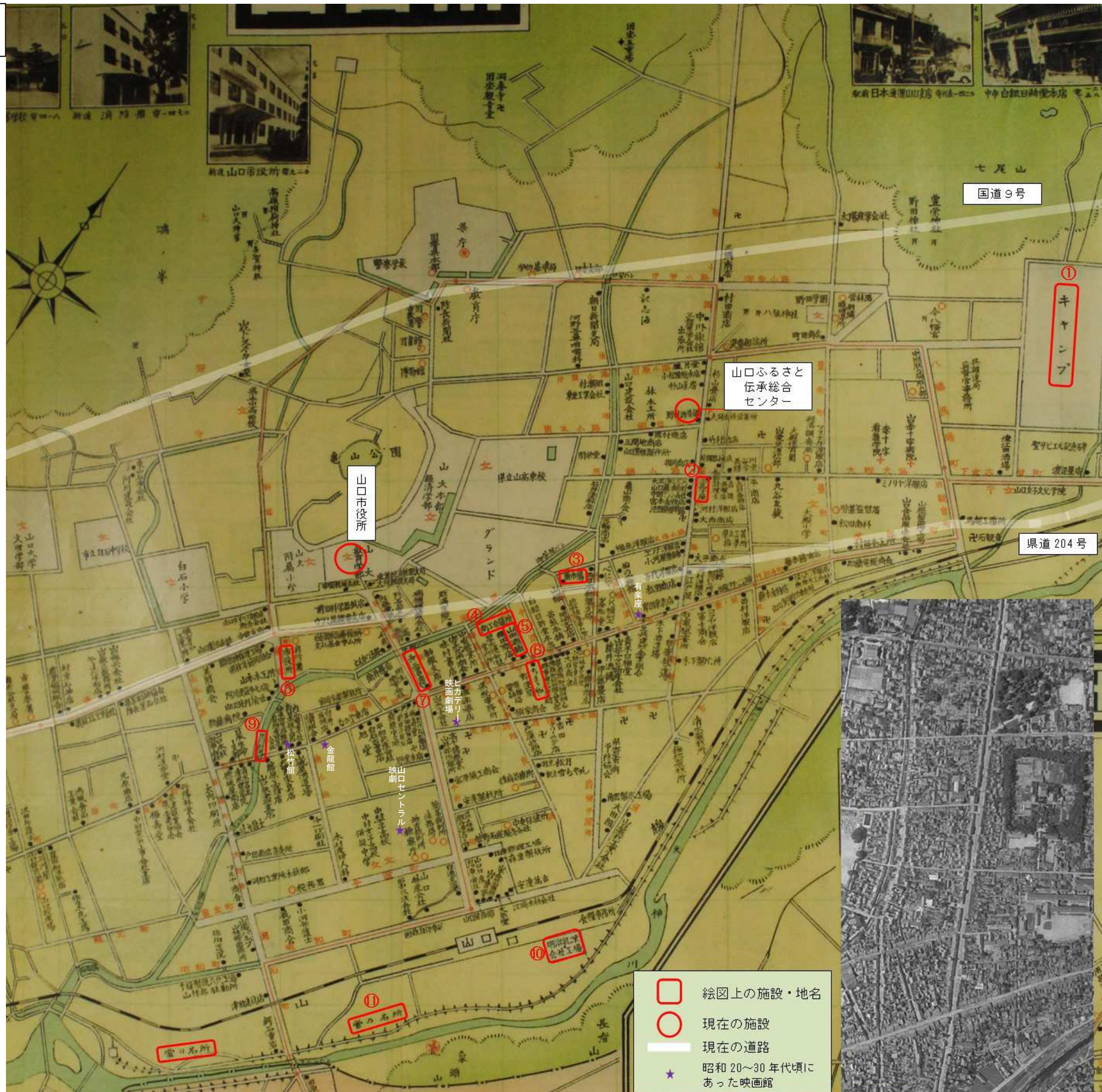
道場門前と西門前をつなぐ安部橋(旧称:極楽橋)のたもとに居を構えた安部家は、建仁元年(1201)惣貫首職補任状が伝わる旧家で、江戸時代有力商人として山口町大年寄を務め、脇本陣となりました。幕末維新期には薩摩藩の小松帯刀・大久保利通・西郷隆盛ら薩長連合の立役者達が訪れました。明治 37 年山口で初めて鉄筋コンクリート橋に。昭和 32 年跡地に「安部本陣之跡」の碑が建てられました。

⑩明治乳業会社工場

消費都市として「工場の煙突のない街」を誇る山口にも誘致が成功し、昭和 16 年大煙突をそなえた工場が落成。煉乳・バター等を製造し、県下酪農事業の中核として期待されました。

⑪蛸の名所

鰐石付近をはじめ山口は古来ホテルの名所として知られました。昭和 7 年乱獲する者があり、山口市ほか周辺村一円を対象に天然記念物に仮指定して捕獲を禁止、昭和 10 年正式に「山口ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に指定されました。樞野川の天神河原・山口駅付近・出合河原にかけても多く見られましたが、その後農業や洗剤の普及、河川の改修などにより減少していきます。



①キャンプ

昭和 20 年 10 月連合軍の山口進駐が開始され、歩兵第四十二連隊兵営は進駐軍のキャンプ(駐屯地)となりました。同 25 年朝鮮戦争が勃発し日米軍が相次いで出動、山口のキャンプからも米軍兵が出動し、北朝鮮軍が釜山に迫った 7 月頃、市内に空襲警報が鳴ったといひます。同 30 年残留していた駐留軍部隊が撤収し、キャンプは日本政府に返還。前年発足した自衛隊が小月駐屯地から移駐し、陸上自衛隊山口駐屯地となりました。

②三文字屋

関ヶ原後毛利氏の防長移封に伴い、安芸国から山口に移り住んだ杉山家は、元禄元年(1688)三文字屋を創業、紙を扱う御用商をつとめ、紙問屋元締めとして藩の行政にも尽力しました。幕末には多くの藩士達が滞り・来訪。昭和 52 年社屋を緑町に移転。平成 29 年跡地に「吉田稔磨止宿之地」碑が建立されました。

③魚市場

新橋にあった魚市場は明治 35 年町営の定期市場となり、翌年大附町に移転。市に引き継がれ、老朽化等に伴い昭和 13 年山口座の跡地に移転、従来の卸売市場に小売市場を併設、衛生施設にも配慮されました。

④商工会議所

商工業発展に寄与するため明治 40 年山口実業談話会を設立、同年山口実業会に改称。同 42 年中心街各商店の連合大売出しを催す「山口デー」を開始しました。大正 12 年山口工業会と合併し山口商工会が発足、財政基盤強化のため昭和 12 年山口商工会議所を設立しました。戦時下の統制経済により同 18 年県商工経済会に再編。同 21 年社団法人山口商工会議所として再発足しました。同 29 年商工会議所法により改組。事務所は町役場・市役所等を経て同 37 年会館落成。平成 5 年全面改築した会館が竣工しました。

⑤山田酒舗

毛利氏の防長移封に際し、山田家初代は藩主輝元に従って山口に。代々酒造業を営み、藩主一門が参勤交代の際に宿泊する「山口本陣」に指定されました。明治以後は山口町役場、市役所が置かれました。昭和 61 年同所にテナントビルを開業、シティ感覚のビルとして注目を集めました。

左: 米軍撮影空中写真 昭和 22 年 (出典: 国土地理院ウェブサイト)